



I'ROM GROUP



第23期 報告書

2019年4月1日 ▶ 2020年3月31日

トップメッセージ

グループの変革と革新による
模倣困難な優位性の確立を目指し続けます

平素はひとかたならぬご支援とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。新型コロナウイルスにより影響を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

その新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な流行により、多くの方が被患し、世界中の人々の健康で安全な生活が脅かされています。当社グループは、医薬品開発に関わる企業として、新型コロナウイルスに対する新規ワクチンの開発に取り組むなど、将来にわたり世界中の人々が健康で安全な生活が送れるよう、明日への希望をつなぐ医療を目指す企業として各事業を推進してまいります。

また、当社グループでは、各事業においてグループシナジーを活かした総合的な医薬品開発支援を行い、新しいサービスの提供を進めています。

SMO事業では、次世代型モニタリングモデルとなるハイブリッド型総合臨床開発支援サービスの提供を開始しました。また、先端医療事業で推進する治験国内管理人(ICCC: In country Clinical Care-taker)においても、グループCROとの連携によるワンストップサービスを展開しています。

さらに、グローバル展開を進めているオーストラリアにおけるCRO事業の受託拡大や中国におけるEC事業の開始など、海外事業のさらなる拡大に取り組んでいます。

2021年3月期においては、中期的な経営方針である「変革と革新」による模倣困難な優位性の確立を実現し、アイロムグループのさらなる飛躍を目指します。

今後とも皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 森 豊隆

● 企業理念

「明日への希望をつなぐ医療を目指して進み続ける」

● 中長期的な経営方針

「変革と革新」・「人材教育の徹底」により、
企業価値の向上を目指す

● 2021年3月期連結業績予想

売上高	13,000	百万円
営業利益	1,300	百万円
経常利益	1,300	百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,000	百万円

決算ハイライト



- ✓ CRO事業、先端医療事業の伸張により、売上が堅調に推移
- ✓ 各事業における収益力強化、利益向上の推進により全事業が黒字化し、連結で四期連続黒字
- ✓ 剰余金の配当を実施[中間:普通配当20円、期末:普通配当20円の計40円(前期比200%)]

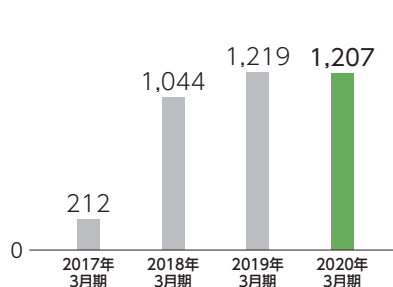
連結売上高

(単位: 百万円)



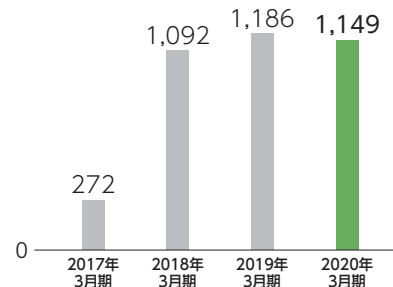
連結営業利益

(単位: 百万円)

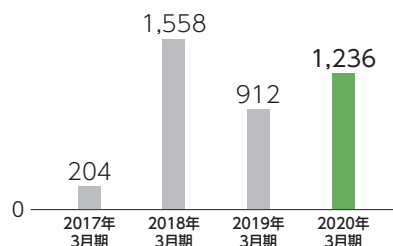


連結経常利益

(単位: 百万円)

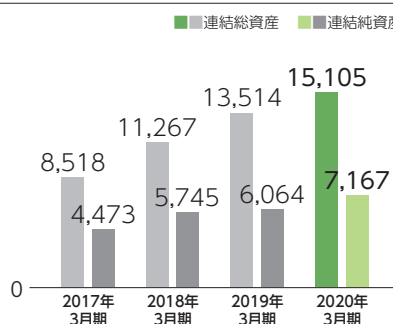


親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



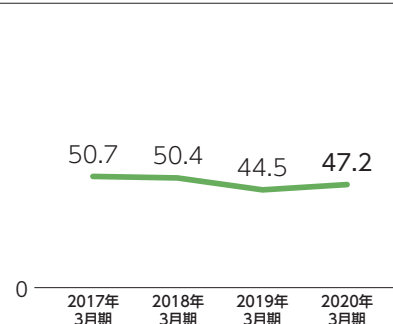
連結総資産／連結純資産

(単位: 百万円)



自己資本比率

(単位: %)



セグメント別の状況

SMO事業 59.0%

売上高 6,250 百万円

営業利益 2,318 百万円

- 専門教育体制を強化し、がんセンターや大学病院等の基幹病院との提携が拡大
- 開発ニーズの高い、がんやその他の希少疾患の支援実績が堅調に推移

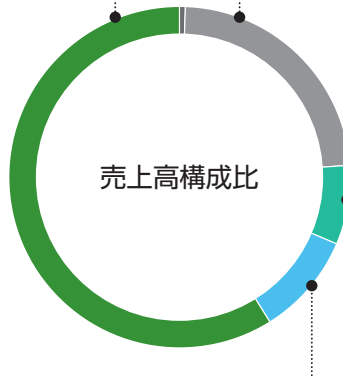
先端医療事業 9.7%

売上高 1,024 百万円

営業利益 20 百万円

- 新型コロナウイルスに対する新規ワクチンの開発を開始
- 治験国内管理人である再生医療等製品の臨床試験を開始し、サービスが本格化

売上高構成比



CRO事業 23.6%

売上高 2,495 百万円

営業利益 97 百万円

- オーストラリアの臨床試験実施施設の受託拡大により、海外売上が堅調に推移
- 国内のアカデミアを中心とした臨床試験や再生医療等製品などの試験支援数が拡大

メディカルサポート事業 7.5%

売上高 794 百万円

営業利益 200 百万円

- クリニックモール事業が堅調に推移



SMO事業

SMO (Site Management Organization : 治験施設支援機関) は、医療機関から委託を受け、関連法規に基づき適正かつ円滑な臨床試験が迅速に実施できるよう様々な業務を支援しています。国内SMOのパイオニアであるアイロムグループは、2,000を超える医療機関と提携し、新薬を中心として早期臨床試験から製造販売後臨床試験までの幅広い疾患領域に対する一貫した支援を行っています。

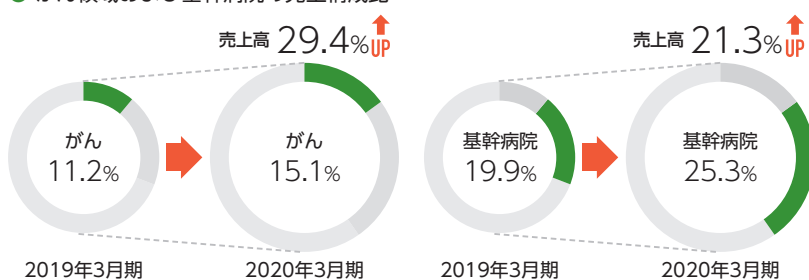


成長戦略

多様化する医薬品開発と国際基準の臨床試験に対応する 高品質なサービスの提供を推進します

医薬品開発における疾患領域の変化に合わせ、がんセンター等の基幹病院との提携を拡大し、がんや腎疾患を中心とした支援実績が伸張しています。国内法のガイダンス改正や複雑化かつ高度化する臨床試験の手順に対応するため、教育の徹底と教育体制の強化を継続して推進しており、様々な疾患や再生医療等の先端医療に対応可能な人材の育成に取り組んでいます。

● がん領域および基幹病院の売上構成比

2021年3月期の
取り組み

- 基幹病院との提携拡大による安定した臨床試験の受託と収益の確保
- 人材教育の強化によるマルチスタイルな人材やスペシャリストの育成の推進



CRO事業

CRO (Contract Research Organization : 開発業務受託機関) は、医薬品・医療機器・再生医療等製品の治験を含む臨床研究等に関わる製薬企業やアカデミア等の業務を代行・支援する受託機関です。当社グループのCRO事業では、国内およびオーストラリアに保有する臨床試験実施施設における早期段階の医薬品開発支援およびアカデミアを中心とした医師主導治験や臨床研究の支援を行っています。



成長戦略

フルサポート早期臨床試験およびアカデミアを中心とした 先端医療に特化したCROとしてのポジションを確立します

グループ傘下の臨床試験実施施設においては、日本およびオーストラリアの連携により、アジアスタディやグローバル試験の受託を推進するほか、オーストラリアで開始した南オーストラリア州開業医医師会との提携によるSMO事業が堅調に推移しています。国内における開発業務受託においては、2019年11月に新たにグループ会社となった㈱IBERICAの強みである統計解析分野の強化により、アカデミアからの受託が拡大しています。また、SMOとの連携によるハイブリッド型総合臨床開発支援サービスや㈱IDファーマが治験国内管理人(ICCC)を務める再生医療等製品治験の開発業務支援をグループCROで実施しています。

● アイロムグループの医薬品開発支援

2021年3月期の
取り組み

- 日本におけるアカデミア・バイオベンチャー等に対する再生医療等製品などの支援拡大
- オーストラリアにおける早期臨床試験およびSMO業務の受託拡大

するためのあらゆるプロセスに寄与し、「明日への希望をつなぐ医療」を目指し進み続けています。



先端医療事業

先端医療事業を推進する㈱IDファーマでは、遺伝子治療や再生医療等の実用化に向けて、医薬品や医療技術の開発・研究、細胞バンク事業等に取り組んでいます。医薬品開発においてはベクター技術を用いた遺伝子治療製剤等の開発・研究を推進するとともに、日本における海外製薬企業の再生医療等製品などの開発支援や、中国におけるワクチンの共同開発を進めています。



成長戦略

再生医療等の開発・研究や支援サービスを拡大し、 先端医療の実現に向けて推進します

基盤技術として保有するセンダイウイルス(SeV)ベクターを用いた新型コロナウイルスのワクチンの開発を開始しました。同技術を用いた遺伝子治療製剤等の開発・研究についてはライセンスアウトも含めて早期の上市を目指して推進しています。また、治験国内管理人(ICCC)サービスによる海外製薬企業の再生医療等製品の開発支援や、中国企業と共同で結核菌ワクチンの開発も進めています。

SeVベクターを用いたiPS細胞作製キットについては、新製品[CytoTuneEX™]の全世界に向けた販売を開始するとともに、製薬企業や研究機関に対し、iPS細胞作製技術等のライセンス活動を積極的に行っています。また、安全・精密な新規のゲノム編集技術を用いた遺伝子改変キット[GenoTune™]の販売および編集技術等のライセンス活動を促進し、安心・安全に使用可能なゲノム編集製品の創出に向けて研究を進めてまいります。

- ジャパン・ヘルスケアベンチャー・サミット2019
ベンチャーアワード受賞



出展した医療系ベンチャー100社程度の中から将来有望なベンチャー企業として選定されベンチャーアワードを受賞しました

2021年3月期の
取り組み

- 遺伝子治療製剤の開発・研究促進およびライセンス契約の推進
- 治験国内管理人(ICCC)の受託拡大による日本国内の再生医療等製品の開発推進



メディカルサポート事業

メディカルサポート事業では、開発事業者や不動産会社などと連携して、駅からのアクセスや地域の医療需要など、様々な条件を満たすクリニックモールを開設しています。また、開設後の運営管理にも力を入れており、クリニックモールでの開業を検討する医師の開業支援を手がけるとともに、開業後の医療機関に臨床試験を紹介するなど、その経営を多角的に支援しています。



成長戦略

クリニックモールの運営により 安定した収益を確保します

メディカルサポート事業においては、引き続きクリニックモール等の運営により安定した収益の確保に努めます。また、臨床試験実施施設の整備や先端医療を提供する施設の開発および開業支援による臨床試験実施施設の確保等により、グループ各社の事業推進をサポートします。



2021年3月期の
取り組み

- クリニックモールの適切な運営・管理
- グループ各社の施設整備の支援による各事業の円滑な展開や拡大を促進



1

先端医療医薬品の治験国内管理人 (ICCC) サービスの推進

日本に拠点を持っていない海外製薬企業の先端医療医薬品の開発支援として、治験国内管理人 (ICCC: In country Clinical Care-taker) サービスを提供しています。現在、米ディスクジェニックス社が開発を進める腰椎椎間板変性症患者を対象としたIDCT-001の治験を国内の6病院で実施しています。今後、治験国内管理人 (ICCC) サービスを拡大し、日本国内における再生医療等製品の実用化に向けて推進してまいります。

また、IDファーマが保有する GMP^(※)施設において、再生医療等製品や遺伝子治療製剤等を製造することが可能であり、開発だけでなく承認後の支援も行います。海外の先端医療製薬企業が日本で開発を進めやすい環境を提供することで、日本における再生医療等製品の開発促進に取り組んでいます。



※ Good Manufacturing Practice: 医薬品等の製造管理および品質管理に関する基準



2

中国における事業の拡大

中国の医薬品市場は急速な拡大を続けており、再生医療等製品をはじめとした先端医療技術の開発が国を挙げて進められています。

アイロムグループは、中国・香港に『愛醫隆有限公司(I'ROM LIMITED)』を設立し、中国製薬企業等との連携強化による中国事業の拡大を推進しています。医薬品開発においては、IDファーマが開発を進めている虚血肢治療製剤(DVC1-0101)の第I相試験を実施いたしました。また、センダイウイルスベクターを用いた新型コロナウイルスワクチンおよび結核菌ワクチンの開発を中国の企業・病院と共同で開始しました。さらに、中国向けに日本製の一般用医薬品や医薬部外品、化粧品等の販売を行うEC事業 (Electronic Commerce: 電子商取引)を開始いたしました。



共同開発先

新型コロナウイルスワクチン 復旦大学附属上海公衆衛生臨床センター
結核菌ワクチン 江蘇瑞科生物技術有限公司

会社の状況 (2020年3月31日現在)

会社概要

会社名	株式会社アイロムグループ
設立年月日	1997年(平成9年)4月9日
資本金	3,720百万円
本社所在地	〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム
連結従業員数	949人(臨時従業員を含む)
連結子会社	株式会社アイロム 株式会社エシック 株式会社アイクロス CMAX Clinical Research Pty Ltd 株式会社IDファーマ 株式会社アイロムPM (他14社)

経営体制

(2020年6月25日現在)

代表取締役社長	森 豊隆	取締役	椿 敦
取締役副社長	朱 亜峰	取締役	小島 修一
取締役	原 寿哉	取締役	渡辺 潔
取締役	松島 正明	監査等委員	
取締役	犬飼 広明	取締役	桑原 秀次
取締役	深瀬 広幸	社外取締役	佐々木秀次
取締役	加藤 親明	社外取締役	高橋 壮志

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-288-324 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により行います。 http://www.iromgroup.co.jp/ ただし、やむを得ない事由により電子 公告ができない場合は、日本経済新聞 に掲載いたします。

株式の状況

発行可能株式総数	37,281,680株
発行済株式の総数	12,048,865株
株主数	13,270名

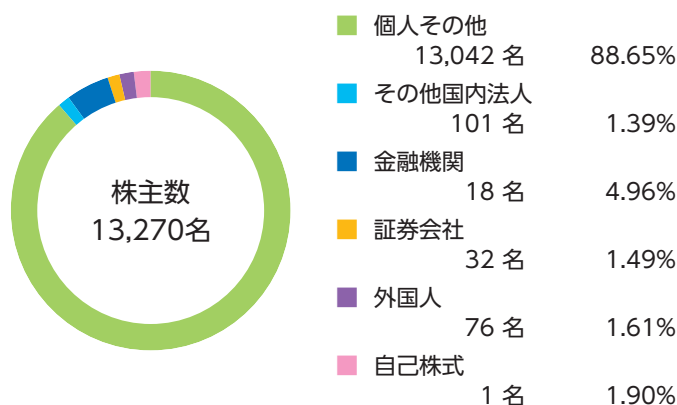
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
森 豊隆	4,754,250	40.22
森 利恵	825,000	6.98
柿沼 佑一	330,000	2.79
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	152,600	1.29
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口5)	138,000	1.17
渡邊 定雄	116,000	0.98
森 龍介	75,000	0.63
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口2)	69,300	0.59
森 博和	63,400	0.54
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口6)	55,100	0.47

(注) 持株比率は、自己株式(228,815株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布

※比率は、各株主が所有する株式数の割合です。



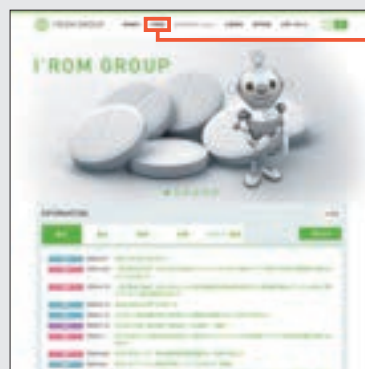
ホームページのご案内

当社のホームページでは、各事業のより詳しい内容や当社の最新の情報を掲載しています。また、IR情報のページでは、財務ハイライトや開示書類をご確認いただけますので、是非一度ご覧ください。

<http://www.iromgroup.co.jp/>

アイロムグループ

検索



● 当社ホームページ



● IR情報

株式会社アイロムグループ

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2

<http://www.iromgroup.co.jp/>

